

# 資格の学校 **TAC** 平成 25 年度 東京都 I 類 B [行政/一般方式] 採用試験 専門記述 会計学 【解答例】

## 問題

企業会計原則の一般原則のうち、正規の簿記の原則について、重要性の原則に言及して説明せよ。

## 解答のポイント

本年度の会計学記述の出題は、正規の簿記の原則と重要性の原則であった。二つの原則は会計学の出題論点としては基礎的な事項からの出題であり、難易度は易しめの問題である。二つの原則の意義はしっかり書く必要がある。その上で、会計処理面という観点で二つの原則を結びつけるような記述が必要である。

## 解答例

正規の簿記の原則とは、企業会計は、すべての取引につき、正規の簿記の原則に従って、正確な会計帳簿を作成しなければならないとする原則である。正確な会計帳簿とは網羅性、検証可能性、秩序性という3つの要件を備えた帳簿をいう。ここで網羅性とは、会計帳簿に記録されるべき事実がすべてもれなく記録されていることをいい、検証可能性とは、会計記録が証憑等の証拠書類によって裏付けられていることをいい、秩序性とは、会計記録が一定の法則に従って秩序をもっていることをいう。

さらに、一般には正規の簿記の原則は、誘導法による財務諸表の作成を要請しているといわれる。また、正規の簿記の原則は、正確な会計帳簿の作成のみならず、正しい会計処理に基づく記録をも要請していると考えられている。

一方、重要性の原則とは、企業の財政状態や経営成績を判断するうえで有用な情報を利害関係者に提供する観点から、会計処理および報告にあたって、重要な項目について特に正確な扱いを要請するとともに、重要性の乏しいものについて本来の厳密な会計処理によらないで他の簡便な方法によることも正規の簿記の原則に従った処理として認められるという原則である。

貸借対照表完全性の原則によれば、貸借対照表には、貸借対照表日におけるすべての資産と負債を記載しなければならない、簿外資産や簿外負債の存在は許されないとされている。

しかし、重要性が乏しいために本来の厳密な方法に代えて簡便的な処理方法を採用した場合に簿外資産や簿外負債が生じたとしても、それが企業の財政状態や経営成績についての利害関係者の判断を誤らせるおそれのない程度に僅少なものである場合には、そのような処理も正規の簿記の原則に従っているものとされる。

このことからわかるように、正規の簿記の原則は重要性の原則のうち会計処理面と関係がある。

以上 (762 字)

- ・会計学記述レジュメ 問題 5 で出題されている問題と類似した問題であり，こちらをしっかりと学習していれば，少なくとも重要性の原則については書けたはずである。
- ・直前期オプション講座「東京都 I 類 B 対策セミナー」において重要性の原則は予想問題の一つとして挙げている。